



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

中郷町の 海岸災害 急ピッチで復旧工事

河川海岸改修開発促進期成同盟会 総会

7月1日、「北茨城市河川海岸改修開発促進期成同盟会」(会長・市長)の総会が開かれました。この会議には県河川課長や高萩土木事務所所長も参加しました。

総会に先立つ現地調査では、昨年崩落した中郷町下桜井地区の海岸災害復旧事業の状況を視察しました。同事業は総額約16億円(1工区285m、2工区451m)の大規模工事で、来年3月末までの完成をめざ

して急ピッチで工事が進められていました。

また、近年、侵食が激しい二ツ島も視察。市長から「県としても何らかの対策を早急に」と要望しました。

親水公園の再生を

会議では五浦海岸の改修や平潟地区の急傾斜地対策等々の要望が各委員から出されました。

さらに、同委員である福田明議員は「磯原の市街地



海岸災害復旧事業



雑草が生い茂った花園川の河川公園

を流れる花園川は、親水型の河川公園として河川改修がされたが、現状では河川に降りて水に親しもうとしても、藪が生い茂り降りることさえできない。早急に



を流るなどして市民の憩いの場となる河川に戻すべきである」と要望しました。これに対して県は「親水型の河川をつくっても、利用ができないのは問題であり、現地を見てみたい」と答えました

市議会の傍聴者が 100名を超える

市議会事務局によると、この6月定例議会での一般質問の傍聴者が100人を越えました。議場の傍聴席は43席で、すぐにいっぱいになったため、テレビモニターが視聴できる議長室、

今、小林多喜二の小説「蟹工船」がブームである。書店の中には売上一位を記録しているところもある。しかも、客層の大半が二十代、三十代の若者だといふ。なにが若者の心を惹きつけるのだろうか。

小説の舞台は、戦前のオホーツク海の蟹工船。そこで働く労働者の奴隷的な実態を描いたものである。新聞やテレビが特集を組んで、このブームを伝えているが、その多くは、当時の過酷な労働の実態と、現代の若者が置かれている、日雇い派遣に象徴されるような、非正規雇用の「使い捨て」の実態が共通の土台となっているのではとの指摘が多い。

「蟹工船」ブーム 北茨城市議会議員 福田 明

同時に私は、当時、多喜二がこの「蟹工船」を書いた時の年齢に注目したい。弱冠25才の青年である。正義感に燃える青年多喜二が渾身の力を込めて書いたこの小説は、時代の壁を乗り越えて、現代の若者の心をも打つ生命力が満ち溢れていたのではないだろうか。

その後、多喜二は共産党に入党して困難な中で活動しながら、労働者を励ます数々の名作を世に送り出した。しかし野蠻な専制主義国家を完膚なきまでに批判した多喜二を、当時の特高警察が捕らえて、その日のうちに拷問で虐殺した。まだ29才の若さであった。

たしかに、今や若者の二人に一人が派遣やパート・アルバイトの非正規雇用。保険も年金もなければ、ボーナスもない。いくら働いても賃金は上がらず、それでいてノルマだけは課す。身も心もぼろぼろになって、低賃金で働かされている実態は、かつての蟹工船と同じかもしれない。こうした背景が若者の共感を呼んでいることは間違いない。

私は十数年前、当時絶版になっていた「多喜二全集」を札幌の本屋で見つけて、これだけは手元に置こうと買い求めた。その後、あまり頁を開いた覚えはないが、文字通り命懸けで書いた多喜二の小説を再度読もうと思う。そして、街頭からの演説でも気迫を込めて政治の改革を訴え続けたいと思う。それはかならず、多喜二の小説と同じように若者の心に響くにちがいないと信じて

市長・副市長室も開放し、対応したとのこと。もちろん議会ロビー、役所ロビーでも視聴できます。すぐに場所を広げることがはかないませんが、今後も、

たくさんの方に来ていただきたいと関係者は期待しています。ロビーでの視聴がしやすいように、イス・机等の用意を考えたいとしています。